



超放任主義の育児

日本と比べ、ニカラグアのママは子どもを放任しています。四六時中子どもの面倒を見ているというママはいません。

また、おもちゃを与えることもありませんし、勉強や習い事に対して親があれこれ言いません。

子どもたちは自分たちで遊ぶ方法を考え、おもちゃを作り、元気にすくすくと育っています。



ありえぬ母親の不在期間！

シングルマザーが多いニカラグアでは、母親が首都や地方都市で、長期間働きに出ることもあります。その間は、祖父母や親せきが子どもを育て、母親は月に1回くらい帰って子どもと過ごします。「子どもは家族や地域のみんなどで育てる」という意識が強いのです。

世界の子育て事情



ニカラグア共和国
Republic of Nicaragua

独立行政法人 国際協力機構 JICA北陸の元青年海外協力隊の
村落開発普及員として南米ニカラグアに派遣されていた
松井久美さん(石川県)に、現地の子育てを語っていただきました。

見習いたい、 大らかさ

何歳までになんかできてくなくちゃいけない、させなければいけないなど、枠にはめて子育てをしている母親はほとんどいません。

そのためか、子育てで無用な心配をすることも少ないようです。子どもはそれぞれペースを育っていきます。このように自然と見守るような子育ての形を日本でも見習えるのいいと思います。



子どもの 居場所がいっぱい

子どもは幼稚園や自分の家だけではなく、祖父母宅や近所の人たちの家、親の職場などさまざまなところに居場所を持っています。

子どもが両親に叱られたときは、それをフォローしてくれる人が周りに必ずいるため、立ち直りも早いようです。

子どもが多くの大人と関わっているため、「放任主義」でもすくすく育っているのではないのでしょうか。



協力：JICA北陸